

(4) 資金調達状況

外資系企業の借入金依存度は上昇に転じたが依然全法人企業よりも依存度は低い

1. 集計企業の借入金総額は、4 兆 5290 億円（前年度比 57.5%増）で、うち短期借入金は 2 兆 2031 億円（同 34.4%増）、長期借入金^{〔注1〕}は 2 兆 3258 億円（同 88.0%増）となった。借入金的大幅増加は大企業の外資化の影響にも留意する必要がある。また、前年度増加した債務保証による借入金は、3142 億円（同 31.7%減）と減少し、借入金総額に占める割合も 16.0%から 6.9%（同 9.1 ポイント低下）に低下した（第 2-4-1 表、2-4-1 図）。
2. 借入金依存度^{〔注2〕}をみると、全産業で 23.9%（前年度比 2.5 ポイント上昇）、うち製造業は 23.7%（同 2.7 ポイント上昇）、非製造業 24.5%（同 2.1 ポイント上昇）と、それぞれ依存度が高まった。これを全法人企業（40.4%）と比べると、全産業平均では外資系企業の方が同依存度が低い。内訳をみると、製造業の借入依存度は外資系の方が全法人製造業（27.4%）よりもやや低い程度であるのに、非製造業は外資系の方が全法人非製造業の約 1 / 2 弱と大きな開きがあるためであることがわかる。外資系企業の借入金依存度は過去 2 年連続で低下してきたが 99 年度に入って再び上昇に転じた背景には、大企業が外資に参入されたことで国内企業から外資系企業への鞍替えがあったことの影響もあると思われる。（第 2-4-2a,b,c 図）。
3. 業種別に借入依存度を比較すると、概して外資系企業の方が全法人企業の同種の業種よりも同依存度が低い業種が多いが、一方、外資系企業の方が高い業種は、輸送機械（29.8%）、電気機械（25.8%）、精密機械（23.1%）であった（第 2-4-3 図）。

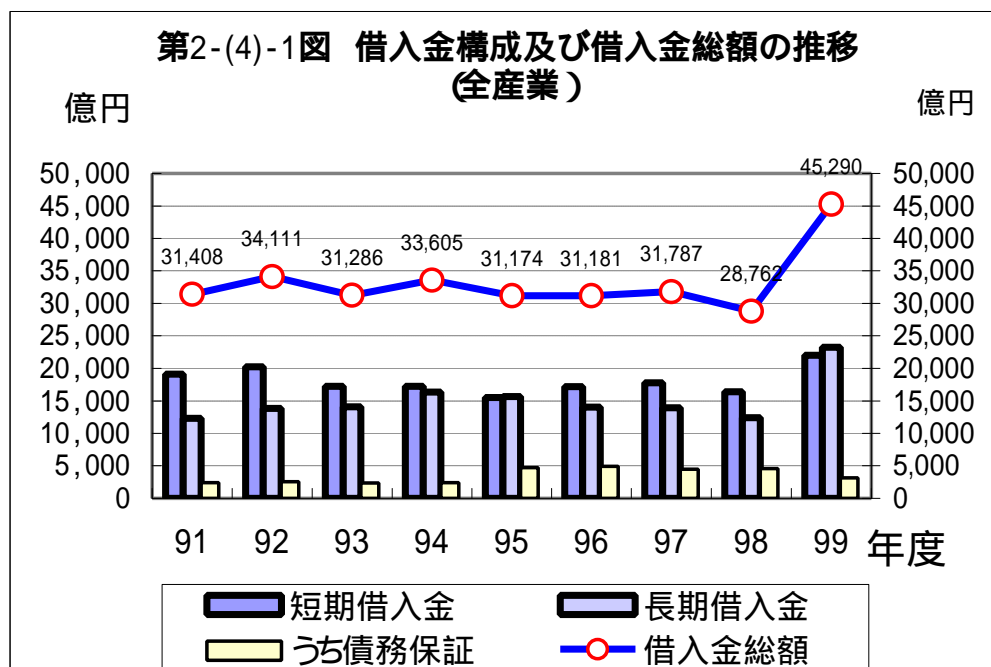
〔注 1〕・長期借入金 = 借入金総額 - 短期借入金

〔注 2〕・借入金依存度 = 借入金総額 / 総資本（= 総資産）× 100

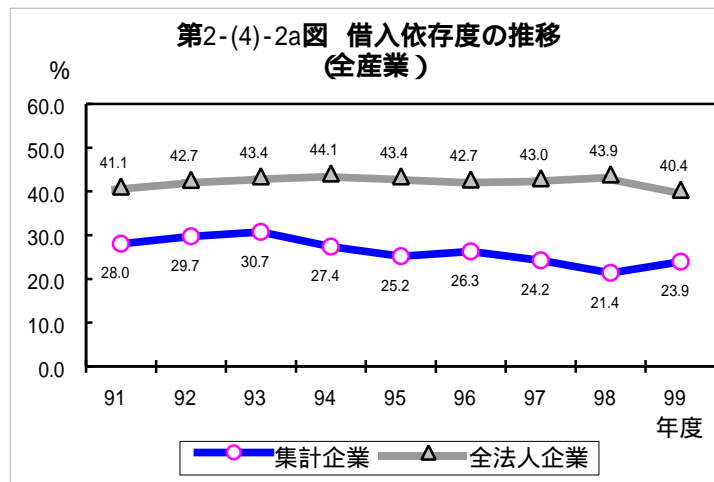
第2-(4)-1表 借入金の構成及び借入金総額の推移（全産業）

	借入額	年度	91	92	93	94	95	96	97	98	99
a	短期借入金	億円	19,100	20,263	17,222	17,255	15,510	17,184	17,811	16,391	22,031
b	長期借入金	億円	12,308	13,848	14,064	16,350	15,664	13,997	13,975	12,371	23,258
c	うち債務保証	億円	2,408	2,562	2,327	2,385	4,745	4,942	4,460	4,600	3,142
d	借入金総額	億円	31,408	34,111	31,286	33,605	31,174	31,181	31,787	28,762	45,290
	前年度比(%)										
e	短期借入金	%		6.1	15.0	0.2	10.1	10.8	3.6	8.0	34.4
f	長期借入金	%		12.5	1.6	16.3	4.2	10.6	0.2	11.5	88.0
g	うち債務保証	%		6.4	9.2	2.5	99.0	4.2	9.8	3.1	31.7
h	借入金総額	%		8.6	8.3	7.4	7.2	0.0	1.9	9.5	57.5
	構成比(%)										
i	短期借入金	%	60.8	59.4	55.0	51.3	49.8	55.1	56.0	57.0	48.6
j	長期借入金	%	39.2	40.6	45.0	48.7	50.2	44.9	44.0	43.0	51.4
k	うち債務保証	%	7.7	7.5	7.4	7.1	15.2	15.8	14.0	16.0	6.9
l	借入金総額	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

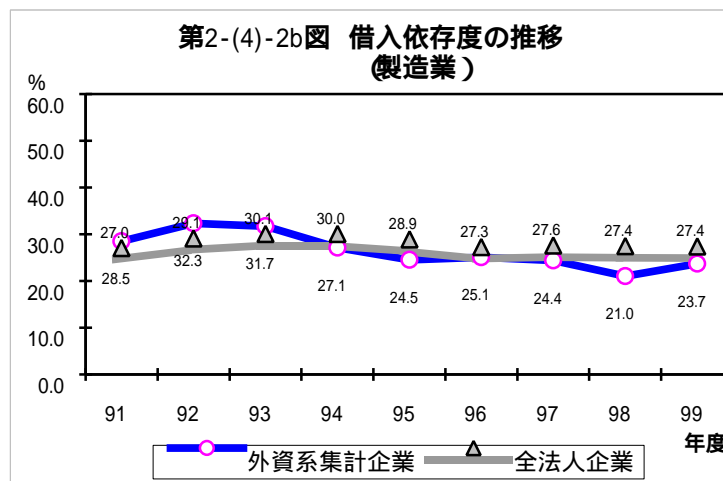
[注]・「うち債務保証」は、短期借入金、長期借入金の両方に関するものである。



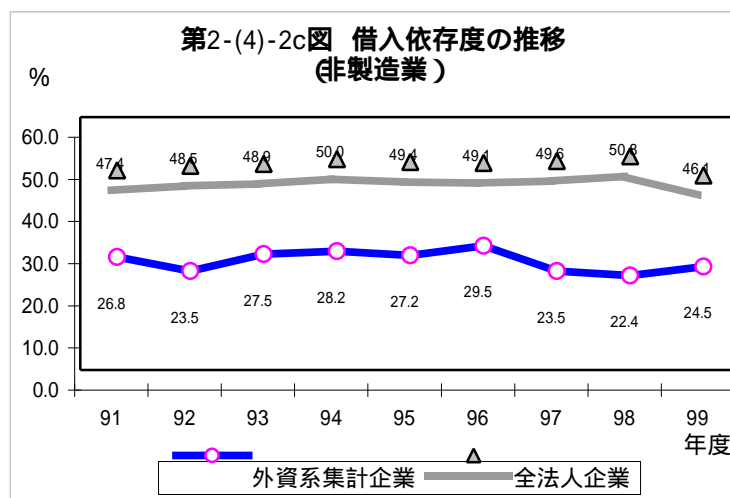
[出典]・全法人企業：法人企業統計（大蔵省／財務省）



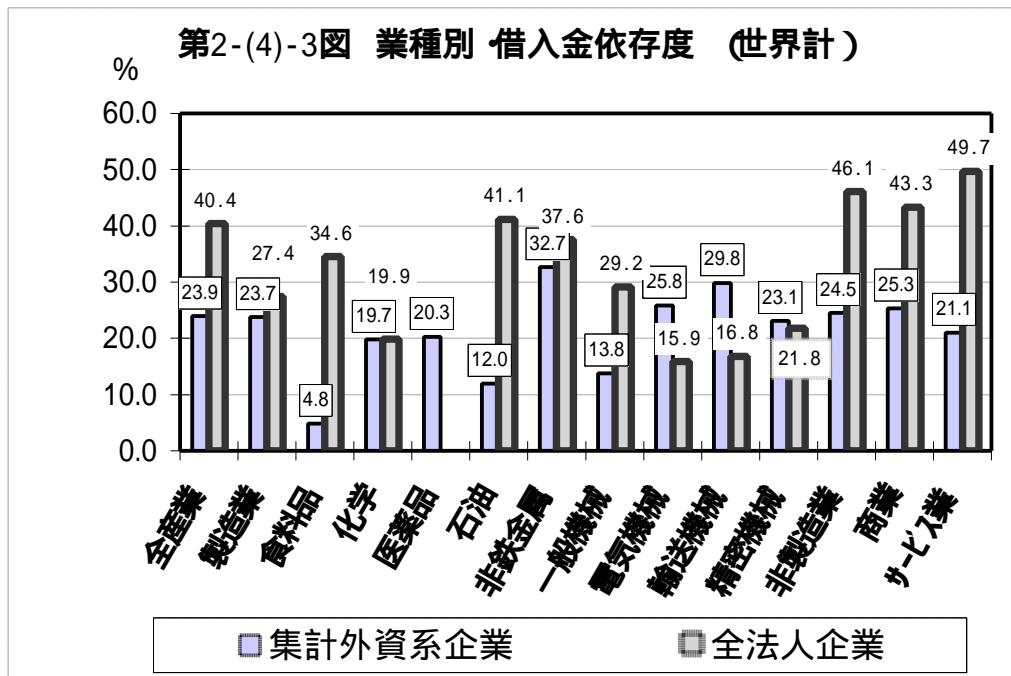
[出典] ・全法人企業：法人企業統計（大蔵省／財務省）



[出典] ・全法人企業：法人企業統計（大蔵省／財務省）



[出典] ・全法人企業：法人企業統計（大蔵省／財務省）



[注] 「化学」は医薬品を含む。外資系の医薬品を参考までに特掲した。

[出典] 全法人企業：法人企業統計（大蔵省／財務省）